



栄光の未来

R5.7.10

第6号

「衣替え」「マスク」の現状を見つめる

今年度から衣替えについての考え方と実施方法について変更されたことは、生徒の皆さんも分かっていることだと思います。気温や天候、季節や季節感、自身の体調、活動にふさわしい服装の在り方などをもとに、適切な服装を自分で考えて決定できる力を身に付けることが、その目的です。そのために、「慣例や前例踏襲」「教師が決めて生徒が一律に従う」という従来の図式を取り払いました。

さて、現状はどうでしょうか。制服については、全校生徒がいわゆる「夏服」に切り替えています。また、体育着についても大半の生徒が半袖・ハーフパンツとなっています。いろいろな事情によって長袖体育着を着ている人もいますが、その人なりの事情や理由があり、本人が十分に考えた上での判断であるとともに、熱中症等の危険を回避できるならばそれもOKであるというのが今の東石山中です。

一方で、マスクについてはどうでしょうか。4月から学校生活においてマスクの着用が求められなくなりました。その際、東石山中としての「基本的な考え」を、次のように示しました。



- **教育活動の実施に当たっては、必要な感染防止対策を適切に講じた上で、マスクを外して学習・活動することを基本とします。**
- **上記の考えにあっても、生徒個々の状況が異なることを踏まえ、生徒に対して学校や教職員がマスクの着脱を強いることはありません。**

校内や新潟市での新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行状況を見ると、現状における感染のリスクは非常に低いと捉えています。学校でも、最も効果があるとされる「常時換気」に努めており、ここしばらくの間はどちらの感染症もほとんど発生していない状況です。このような状況にありながら、9割以上の生徒がマスクを着用しているのが実態です。



生徒の声を聞くと、大半の生徒がマスクを外さない理由は感染症対策とは全く別のところにあるようです。「マスクを外すのが恥ずかしい」「他の人がマスクをつけている中では外しにくい」といった声が多く聞かれるように、自分の素顔を見せることや他の人と一緒にないことへの不安感や抵抗感が、マスクを外さない大きな理由として見えてきます。この現状や生徒がそのように思うことについて、校長である自分は非常に大きな問題であると受け止め、危機感に近いものを感じています。

「基本的な考え」にあるとおり、マスクを外して学習・活動することを基本としながら、着脱については強要しないという構えです。しかし、この考え方は「マスクの着脱は個人の自由である」ということとは違います。他者とのかわりを通して学び、育っていく場である学校において、目指したい姿は「安心してマスクを外し、互いの表情を見ながら豊かにコミュニケーションをとることができる」ということです。「基本的な考え」の1つ目は、そういう意味なのです。



安心してマスクを外し、互いに Face to Face で豊かなかかわり合いができる。事情があってもマスクを着用しても、仲間から温かく理解される。東石山中はそんな学校でありたいと思っています。